

Ouhokai - Kaihou

桜圃会 会報

編集発行：山口県立大学同窓会桜圃会

《事務局》〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095

メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

印刷：(株)マルニ

Vol.72

令和6年3月1日発行



山口県立大学創立80周年記念式典

2023年(令和5年)11月11日(於)山口市民会館

「桜圃会」は、令和五年に創立八十周年を迎えました。その節目を皆様とご一緒にお祝いし、心から慶びたいと思います。

創立八十周年の記念事業として、「記念品」「記念公開講演会」「桜圃会報記念号」、そしてこれまでの「講演会録音テープ等のデジタル化」等々への取組を進めております。八十年もの歴史。その間には、第二次世界大戦、戦後の混乱期、高度経済成長時代、低成長時代、そして今。その時代、時代で、多くの学生たちが輝く青春を謳歌し、真摯な学びの日々を創り、社会で活躍する人材として巣立ち、卒業後も「桜圃会」会員として、様々な絆やネットワークで繋がってきました。

かつての学び舎は、自然豊かな、田園に囲まれた木造校舎でした。今、高台の桜の森にそびえる近代建築の新校舎の姿に、八十年の時の流れを感じます。確かな大学のあゆ

創立八十周年の節目に

山口県立大学同窓会桜圃会

会長 相本艶子



みを、培われてきた桜圃会との強い絆を、そして、未来を担う若き後輩たちと創っていく、大学と桜圃会のこれからに思いを馳せます。

学生活動の様々な場面を通じての後輩たちへの応援、母校での将来構想の検討を通じ、未来に向けた母校と桜圃会の新しい関係づくり、その中で「一般社団法人山口県立大学桜圃校友会(仮称)」「への移行について、検討を重ねております。

「地域貢献型大学」「知の拠点」として、リカレント教育、文系DX人材の育成等々「時代の課題」に取り組む大学の更なる進化。桜圃会も創立八十周年の節目を機に新しい時代を見据えた様々な取組を前に進めていきます。

最後に、「桜圃会創立八十周年記念公開講座」講師 浜田敬子氏を本年十二月に開催(予定)しますので、お知らせします。

(昭和41年被服卒)

九十周年、百周年への歩み

学長 田中 マキ子



令和五年十一月十日(土)、山口市民会館において、創立八十周年記念式典を開催いたしました。本学は昭和十八年九月の卒業生から、令和五年三月までに卒業生・修了生三七・三七三名を、県内外はもとより国内外においても活躍する優位な人材として輩出して参りました。この日は、在学生、卒業生、地域のみなさま総勢一、〇〇〇人を超える方々が集まつて下さり、華やかな会が開催できました。午前は、在学生のステージ発表があり、多くの方が御覧くださいました。大学院研究科の展示も大変人気がありました。起業されている卒業生等が、お弁当やパン・お菓子など物販をしてくださいましたが、あっという間に売り切れました。

式典では、山口県副知事、山口県議会議長をはじめ文部科学省、県関係者、政界や各市町の首長など、本学に関係する各機関から多数ご来賓いただきました。特別講演で

は、東京オリンピック二〇二〇の副主将を務められた卓球の石川佳純様にご講演をいただきました。石川さんの現役時代、「もうダメだ!」という時に巻き返す闘志や、鍛えられた技は、私たちが普段の生活の中で感じたり、経験することとなり、どんな時にも夢や目標を持つて頑張ることの意義を教えてくださいました。

先行き不透明なVUCAの時代に、これまで培われてきた伝統を九十周年、百周年へと紡ぐために、守らなくてはならない本



石川佳純氏のご講演の様子

質は忘れず、変化に怯まず挑戦を続けることを誓いました。小規模大学としての特徴をしつかり活かし、個性豊かで地方創生に寄与できる優位な人材輩出に向けて、地域課題に目を向け、地

域の方々と一緒になつて地域課題解決に取り組む様が、一地域に学び、地域を拓く「山口県立大学の姿である」ことを、再認識する日となりました。

本学における附属高等学校の設置

将来構想推進局長 三沼 仁



将来構想推進局は、山口県と本学が令和四年三月に策定した「山口県立大学将来構想」で掲げた様々な改革を着実に進めるための旗振り役として、令和五年四月に設置した組織です。

現在の我が国は少子・高齢化や人口減少が進み、山口県においても令和五年八月時点の人口が一三〇万人を下回り、予想よりも早いペースで人口減少が進行しています。その一方で、社会・時代の変化とともに解決すべき課題は複雑化し多岐にわたっており、

り、大学には、こうした直面する課題の解決にいかに関与できるかが強く求められています。

「地域貢献型大学」として若者の県内定着や地方創生の実現に取り組み、地域とともに未来を切り拓く大学を目指す本学にとって、地域・社会が求める分野横断的な広い視野を持つて未来の山口県を担い活躍する人材を育成していくことは大きな使命です。

こうした人材を育成する観点から、附属高等学校の設置を計画しました。未来の山口県を担い活躍する人材を、大学の四年間だけでなく高等学校の三年間を合わせた七年間の一貫した教育理念のもとで育成する必要がありますと考えました。

附属高等学校では、山口県の課題や魅力を把握している本学

の強みを活かして、県の課題や魅力のほか、大学教育にも直接触れながら、直面する課題の解決にチャレンジすることの意義・素晴らしさを身に付け、大学進学後はそれぞれの専門分野において具体的な課題解決方法を自ら発見してほしいと思います。

附属高等学校は、現在の県立周防大島高等学校の設置者を山口県から公立大学法人山口県立大学に変更し、令和八年四月に開校することを目指しています。

桜園会の皆様には、山口県を担う人材育成のための改革を進める本学に是非ご注目いただき、ご支援賜りますようお願いいたします。





桜園会第44回公開講座

ひとや地域のwell-beingを

推進できる文系DX人材とは？

コスモエネルギーホールディングス株式会社

常務執行役員CDO ルゾン力典子

令和五年十二月十一日(月)、講堂(桜園会館)において大学との共催で公開講座が開催されました。講師はコスモエネルギーホールディングス株式会社の常務執行役員CDO、ルゾン力典子氏です。

近年急速に進むデータ活用とデジタル革命について、その目的は、人の働き方や意思決定のプロセス、コミュニケーションの仕方を変え、人(消費者や顧客など)に対し

て圧倒的に優れた提案をして、暮らしや生活の質を上げることだと言われました。これが様々な事業を成長させることにつながります。その基本にあるのは、社員一人ひとりの「意識改革」。会社では5つのC(チャンス、チャレンジ、チェンジ、コミニケート、コミット)を研修の要とし、デジタル化や全体のマネジメントをしているそうです。

講演では、今日の世界や社会の変化と、そこに出ていく学生たちを見据えて、いくつもの助言をいただきました。例えば、「情報は待たずに自分から取りに行くこと」「身の回りのことを観察し、仮説を立て、検証して実験(実証)してみること」「必要なスキルは自らどんどん身につけること」「課題解決のためには知っているだけではだめで、活用できる知識をもつこと」など。多様な知識とスキルをもつメンバーを集めたチームで動く今日では、自分の好きなこと、得意なことは何かを問

続け、伸ばすことが大切だと言われました。

講師自身は中部地方の公立大学を卒業し、心理学が好きでアメリカに留学。そこでデータ活用の魅力を知ったそうです。若い人の転職が増えているこの頃ですが、会社や部署や上司が「嫌い」といった理由で転職しても、結果は同じ。この会社は自分を鍛えてくれるか、成長させてくれるかといった視点をもち、自分はどこを伸ばすかをしっかり考えてほしいというエールを送っていたきました。

相本会長からは、二人一人にわかりやすく講義をしていただいたことへの感謝の言葉とともに、大学院修了生が開発した大内塗のリングホルダーが贈られました。

(昭和56年児童文化卒 岩野記)

大学との情報交換会

桜園会と山口県立大学との令和五年度情報交換会は、令和五年五月二十日と令和六年一月二十四日の二回開催された。

第二回は、大学から、時代や社会の変化に対応し、地域とともに未来を切り開く大学であり続けるために将来構想を策定中であること、公式マスコットキャラクター「わいびよ」の誕生、大学創立八十周年記念式典の開催、今年度中にキャンパス移転が完了することなどの報告があった。さらに、校友会について意見が交換された。

第二回は、大学から、令和八年四月開校を目指す附属高校に県立周防大島高校が選定された経緯・理由や校友会への移行について報告があった。

また、提示された校友会設

立案は、これまでの案とは大幅に異なるものであった。具体的には、法人化し名称を「一般社団法人山口県立大学桜園校友会」とすることや業者による名簿管理等のシステムを導入することなどが提案された。支部会については、「一般社団法人となる校友会本部の支部となる」と明示された。支部長からは「これまで行ってきた支部会員への発送作業などの業務も校友会本部が行ってほしい」や「支部にはこれまで通り助成金をいただけるのか」などの発言があり、また「桜園会総会までに組織などを示した詳細な案を提示してほしい」などの意見・要望が活発に出された。

(昭和54年国文卒 安光記)

人事異動

■教員

採用

西村 貴子	看護栄養学部准教授
芹澤 隆道	国際文化学部講師
藏田 典子	国際文化学部講師

退職

稲田 秀雄	国際文化学部教授
藪本 知二	社会福祉学部教授
渡邊 朝子	看護栄養学部教授
弘津 公子	看護栄養学部教授
中谷 信江	看護栄養学部講師

■事務職員

採用

三沼 仁	将来構想推進局長
大川 謙一	将来構想推進局 山口県立大学附属高等学校 設置準備室副室長
原 典親	将来構想推進局 山口県立大学附属高等学校 設置準備室主査
河崎 雅彦	法人経営部事業管理 ・経営企画部門主査
石津 由梨	将来構想推進局 山口県立大学附属高等学校 設置準備室主任

退職

阿部 絵后	法人経営部事業管理 ・経営企画部門主事
-------	------------------------

令和五年度

桜園会総会

令和五年五月二十一日(日)、山口県立大学(北キャンパス2号館B401教室)にて桜園会総会が開催された。新キャンパスでは初の開催であり、参加者数百四名の盛会であった。

最初に、相本艶子会長の挨拶の後、岡正朗理事長、本会名誉会長の田中マキ子学長から挨拶があった。

続いて議事に入った。まず、令和四年度事業報告、決算報告、監査報告、令和五年度予算案がそれぞれ承認された。次に、岡村副会長から校友会移行に向けた検討状況について説明の後、相本会長から本日は提案のみとし来年度総会において決定したい旨説明があった。最後に、令和五年に創立八十周年を迎える桜園会の記念事業について乃木副会長から説明があった。

議事終了後は、恒例の講演に移り、「山口県立大学と私」と題して桜園会特別顧問である福田百合子名誉教授による講演が行われた。講演では、先生の手書きのレジメに沿って、昭和十六年の山口高女入学に始まり特別顧問になられるまでの先生の歩み、即ち山口県立大学の歩みが生き生きと語られた。いつもながらユ-

モアたっぷり語り口に会場は始終笑いに包まれていたが、昭和二十年敗戦前後の学び舎の様子、短期大学また四年制大学への移行の様子、太田静一先生の郷土文学演習における激論の様子等々貴重なお話ばかりであり、笑いながらもこの間の諸先生方、先輩方のご苦労に思いを致した。

総会終了後は、会場を厚生棟に移し、会食の時間が設けられた。会食のお弁当とお菓子はどれも本学卒業生の企画による商品で、お弁当は「心と体に寄り添うごはん」をコンセプトに、お菓子は菓膳のエッセンスを取り入れており、健康的で季節感のある内容であった。会食の後、希望者はキャンパスツアーに参加し、発展を続ける学び舎の空気を堪能した。

(昭和56年国文卒 杉山記)



令和6年度

桜園会創立80周年 記念総会のご案内

日時

令和6年5月19日(日)
10時～11時30分

場所

山口県立大学北キャンパス
2号館B401号室
山口市桜島六丁目
二番二号

参加費 無料

※総会にご出席の方には、80周年記念品をさしあげます。

総会

会務報告、決算報告、
監査報告、役員改選(案)
事業計画(案)、予算(案)
校友会設立(案)

総会実行委員は、S55
年卒業・R5年卒業、修了の方々です。

総会終了後

ホームカミングデー
(大学主催)

※出席ご希望の方は、5月10日(金)までに同窓会事務局までお知らせください。

令和4年度桜園会会計収支決算書

R5.4.7 (単位:円)

科 目	令和4年度決算額
収入	
繰越金	9,126,357
経常会費	2,380,000
本部入会金	5,176,073
事業負担金	0
雑収入	159,492
合 計	16,841,922
支出	
総会費	257,174
会議費	219,924
支部援助費	598,204
会報作成費	1,624,532
公開講座費	113,261
桜園賞	181,416
入会記念品	630,000
広報活動費	94,688
学生支援費	1,419,109
旅費	1,082,141
通信費	114,838
印刷費	20,902
事務局運営費	2,530,925
退職給与引当金	0
情報管理費	99,000
備品費	0
消耗品費	265,460
雑費	80,840
特別会計に繰入	0
予備費	0
合 計	9,332,414
次年度繰越金	7,509,508

事務局からのお願い

同窓会の運営は皆さんの会費で成り立っております。
会費の納入にご協力ください。

◆桜園会本部年会費納入(2千円)をお願いいたします。

*希望される方は終身会員になることができます。

終身会費は一括払いで2万円です。

(H30.5.13改定)

◆振込用紙に郵便番号、住所(番地、建物名、部屋番号)、氏名(ふりがな)、電話番号を正確にご記入下さい。

通信欄には会員番号(封筒の宛名シール右下)、卒業年・科・勤務先、送金明細をお書きください。

*住所・勤務先の変更、改姓も必ずお知らせください。

◆ご連絡・質問の窓口

山口県立大学同窓会桜園会事務局

住 所 〒753-8502 山口市桜島 3-2-1

TEL&FAX 083 (925) 7485 (職員在室日は水・金曜日 10時～17時)

E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学のホームページからもアクセスできます。
(<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp>)

*桜園会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。

会員近況報告

八十歳からの自己啓発

日本画家 土光 洋子



生まれ故郷の台湾を私は深く知る機会が無かった。むしろ避けていたかもしれない。訪台の度に肩身の狭い思いがしたが、植民地への響きが原因だった。八十歳を過ぎて台湾を深く知る機会を得た。人が住めない未開の島が先人達の貢献により近代化した歴史的事実、戦後の悲惨な台湾の状況等である。母から聞いていた蒋介石のイメージが一変したのも驚きであった。彼は東洋のヒトラーとも呼ばれている。日本人の偉業は隠され、台湾の暗黒時代は歴史から消されてしまった。これ等を伝える為に私は「台湾80歳から学んだ故郷」(株式会社New York Art)を昨年出版した。令和五年七月、台南で安倍元総理の追悼写真展が開催された。山口県から二人の画家が出品する事と成り、私は五人の美人画を持参した。来場され

た昭恵夫人の歓迎振りはいかばかりか。夫の意志を継いで日台の友好に務めまうと思いを述べられた。昭恵夫人の勧めで私は台湾に關しての講演をさせてもらった。台湾でも幾度か個展をし、令和五年三月には台南美術館が美人画を所蔵してくれた。一月三日からの展覧会に訪台の予定も入れている。すぐに米寿を迎える私は微力ながら余生を日台友好の為に尽力したいと思っている。

(昭和32年児童卒)

会員近況報告

社会福祉学部基礎演習で講義させていただきました

弁護士 清水加奈子

二〇二二(令和三年)十二月二十四日、社会福祉学部基礎演習でゲストスピーカーとして岡山からリモートで講義をさせていただきました。講義では、現在の仕事のこと、学生時代のこと、先輩に伝えたいことなどを中心に話しました。私は、県立大学を卒業後、法学部へ編入学し、その後一般企業での就労を経て、法科大学院に入学し、現在、弁護



先輩弁護士とともに

士として働いております。このような私の紆余曲折した経歴や経験が後輩の皆さんの参考になったかは分かりませんが、皆さん大変熱心に耳を傾けて下さり、講義後は、先生方から「学生の刺激になったようです」などと言っていた、大変嬉しく思いました。

弁護士になつてからは、成年後見業務に力を入れています。成年後見制度とは、判断能力の衰えた方の後見人等となり、ご本人の法律行為を支援する制度です。社会福祉専門職の方と協働することも多く、県立大学



会員近況報告

安心して育児をスタートできるために

看護師 小林 愛吏

精神科病棟を五年間、産科病棟を二年間経験し、現在はMFICU(母体胎児集中治療室)で勤務しています。MFICUには身体的リスクに加え、心理社

で学んだことが現在の自分の弁護士業務とつながっていることを実感しています。同時に、県立大学で学んだ社会福祉の理念は、どのような仕事、生活をしていても活かすことができるものだとも感じております。これからも精進して参りたいと思います。

(平成14年社会福祉卒)

会的、精神的リスクのある患者さんが入院されることもあります。また、元々は精神的リスクのなかった患者さんも長期入院の中でメンタルヘルスに不調をきたすことも少なくありません。メンタルヘルスの不調は養育不全や児童虐待、妊産婦の自殺の原因になっており、病棟全体で予防のために取り組んでいます。異動した当初は周産期領域で看護師として働くことに悩むこともありましたが、精神科での経験を活かし、医師や助産師、地域の保健師と協働して患者さんへ関わっています。また、在学中に学んだ母性領域や精神領域に關することだけでなく、母子保健に關する学びも現在の病棟での患者さんへの関わりにつながっていると感じます。笑顔で母子ともに退院していく患者さんを見送ることができた時には、とてもやりがいを感じます。今後在学中の学びや看護師としての経験を活かし、患者さんが安心して育児をスタートできることを目標にがんばっていきたいと思っています。

(平成26年

看護卒)

第二十三回桜園会賞 受賞報告

功労賞

次代を担う

子どもたちへ

原田 洋子



このたびは桜園会功労賞をいただき、誠にありがとうございます。

振り返りますと、高校卒業後、近くにあった当時の山口女子短期大学に入学しました。卒業後は、県内各地で社会活動などを展開して参りました。七十歳を超えたころ、「果たしてこのままでよいのか」と考えるようになり、七十二歳で、思い切つて、母校・山口県立大学の大学院国際文化科学研究科に入学して、学び直しの機会を得ました。大学院では若い世代の学生や中国からの留学生たちと議論を深める中で、研究に邁進したことに感慨深いものがあります。大学院において修得した知識を、人

との出会い・交流を通じて地域に還元するべく精力的に活動いたしました。

なかでも、地域の宝である子どもたちの健やかな成長を願つて立ち上げた活動「すこやか秋穂つ子プロジェクト」や「絵本とおやすみ、いい夢たっぷりプロジェクト」などでは、絵本の読み聞かせや子どもたちの居場所づくり、子どもに生活リズムを身につけさせるための絵本リレーなどを展開して、子どもの読書活動を微力ながらサポートして参りました。

次代を担う子どもたちには、素敵な本や人に出会つて欲しいと願いつつ、受賞の御礼といたします。

(昭和35年国文学)

平成24年大学院修了)

奨励賞

“私”である

ことの意義

高島 海



この度、桜園会奨励賞という身に余る賞を戴きまして恐縮しております。謹んで御礼申し上げます。

私は、学生の時分より、自分にしかできないことは何か?ということを常に考えてきました。

「自分探し」といえば聞こえはいいですが、課題でも制作物でも模倣から入ることも多く、オリジナリティとは何か?自分らしさとは何か?ということの追及に頭を悩ませる日々でした。

生活の糧を得るにもいろいろと思いを廻らせ、幸いにも縫うこと、手を動かして何かをつくるということが好きで、技術を持ち合わせていたので、それを活かす職につくことができました。

結果として、好きなことを諦めない、やり続けることによって今日に至ります。

今や我々服飾の分野においても競合はAI(現段階ではその開発者か)となりつつあります。しかしながら、それには決して生み出すことのできない五感に訴えるもの、手仕事の価値が必ずあると信じています。

私にとつて衣服は自分がどう生きたいか、どのようにありたいかを表現するものです。それは日々の生活の衣食住、何を食

べて、どう暮らすかと同じこと。このことは家政学部生活デザイン学科、そして大学院・国際文化科学研究科で学んだ自身の

財産であると改めて感じ、誇りに思っております。

(平成13年生活デザイン卒)

平成15年大学院修了)

新しい時代の「桜園会」は

山口県立大学同窓会桜園会 会長 相本 艶子

未来に繋ぐ桜園会のこれからを理事会及び大学当局、支部の皆様とも、「山口県立大学桜園校友会(仮称)」への移行、その姿を素材に、協議を重ねてきました。

桜園会が八十年のあゆみを通して培ってきた貴重な足跡と母校との絆。その上に若き後輩たちが創っていく桜園会の新時代。協議にはその両方の視点と大学を取り巻く厳しい社会情勢の中での大学改革の推進等も考慮が必要です。

詳細につきましては、理事会や大学との情報交換会、支部長・理事合同会議、支部会など、様々な場で具体案をお示しし、協議の輪を広げていただきたいと思います。桜園会は私たちのこれまで以上に関心をお寄せいただき、様々なご意見を届けていただきます様、そしてそのご意見が、活かされる努力を続けていきたいと思います。

運びとなります。

協議案は、名称は「一般社団法人山口県立大学桜園校友会」とし、これから広範な活動展開が可能な法人化を行うこととなります。活動内容も、これまでの桜園会の活動、例えば、「桜園会賞」の選定・表彰、会報の発行、公開講座、学生支援活動など、ほぼ引き継がれる予定です。

大学や桜園会の八十年記念事業等様々な事情から、皆様に告示しております協議スケジュールが少し遅れておりますが、二〇二四年(令和六年)度桜園会総会で、校友会移行の賛否を問い、賛同が得られれば、翌年二〇二五年(令和七年)四月に校友会設立の



現寮生代表のあいさつ



第一期生 岡村様



第一期生 守田様



集合写真(寮の前庭にて)

山口県立大学「樫水寮」の 閉寮について(ご報告)

山口県立大学 学生部

本学の学生寮「樫水寮」は、昭和四十七年の開設以来、五十年の永きにわたり数多くの女子学生に宿舎を提供し、共同生活を通して社会性の育成に寄与してまいりました。しかしながら、建物の老朽化やここ数年の入寮希望者の激減に伴う経営状況の悪化等により、令和五年度末をもって閉寮するという苦渋の決断に至りました。この一年間は、大学が財政支援を行いながら経営を継続し、このたび、令和六年二月十日(日)に閉寮式を執り行いました。

同窓生の皆様には、突然のお知らせとなつてしまったことを、心よりお詫び申し上げます。

式には、現寮生に加え、舎監の

方々や卒業生代表として現樫水寮の第一期生である岡村恵子様と守田幸子様に出席いただきました。

会場の規模や周知の難しさなどから、関係者のみ総勢三十五名での開催となりましたが、卒業生のお二人から当時の懐かしいお話を聞きながら、これまでの歴史を振り返ることができました。また、花束贈呈やさくらの森夢基金への自治会費の寄附なども行われました。和やかな雰囲気の中、その歴史に幕を閉じることができました。

当日の様子は、大学HPに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

第二十八回 支部長理事合同会議

令和五年五月二十日(土)、支部長理事合同会議が山口県立大学厚生棟で開催されました。

まず相本会長より「大学が多様な役割を求められ新構想のもと取り組みを開始されている今、同窓会も同窓生・在校生・教職員・大学当局と一体となった未来づくり取組体制が必要ではないか」ということで、校友会への移行の問題が数年前から出ている。明日の総会で提案し、来年議決を取りたいと考えている。二年間をかけて同窓会の未来像を考えていきたいと思います。」と挨拶がありました。

引き続き協議に入り、入会者の減少や活動の停滞・事務局業務の煩雑・個人情報セキュリティ

ティ対策・支部の後継者や参加者減少等の課題、これまでの検討状況と今後の取り組み、校友会設立のイメージ(今後校友会設立検討会議で変更の可能性あり)等が説明されました。その後各支部長から質問や意見が出ましたが、支部活動継続の難しさ、今後の個人情報管理、支部活動への支援等についての不安や疑問が多く語られました。

次に今年九月桜園会が創立八十周年を迎え、記念事業として総会公開講座の録音テープ等のデジタル化、八十周年記念会報、記念グッズ、記念講演会等を検討している旨報告がありました。

長い歴史のある桜園会。未来に繋がる姿を真剣に考えていきたいと強く感じました。

(昭和51年被服卒 岡村記)

謹んでご冥福を
お祈り申し上げます

◆教職員
旧教員
旧教員

◆会員

S18 家事	山藤 久子	H30.10.7
S19 家事	伊藤 美子	R5.4.11
S20 国文	福井 栄子	R5.2.21
S22 国文	白井 栄子	R5.2.28
S22 保健	清水 栄子	R4.10.9
S22 保健	村田 栄子	R5.4.14
S23 生活	沖村 栄子	R5.1.12
S23 生活	寺内 栄子	R4.11.6
S23 生活	水戸 栄子	R4.2.24
S23 生活	戸田 栄子	
S23 生活	河野 栄子	
S24 生活	渡辺 栄子	H30
S25 生活	西川 栄子	
S26 生活	古川 栄子	
S26 生活	渡辺 栄子	R3.7.4
S26 生活	内藤 栄子	R4.12.15
S27 国文	阿部 栄子	R5.4.14
S28 国文	田中 栄子	R4.11.27
S28 国文	小田 栄子	R5.12.10
S28 国文	吉長 栄子	
S29 国文	又中 栄子	R4.4
S29 国文	安本 栄子	
S30 国文	本名 栄子	R4.11.29
S30 国文	和田 栄子	R5.1.18
S30 国文	藤田 栄子	R5.6.12
S30 国文	種田 栄子	R5.8.14
S31 国文	野村 栄子	R2.2.18
S31 国文	松原 栄子	R3
S32 国文	黒瀬 栄子	R3.5.28
S32 国文	渡辺 栄子	R5.2.18
S33 国文	渡辺 栄子	R3.12.21
S34 国文	美濃 栄子	R5.1
S34 国文	岡村 栄子	R4.9.22
S35 国文	平岡 栄子	R5.3.26
S35 国文	河村 栄子	R5.5.13
S36 国文	藤下 栄子	
S36 国文	松井 栄子	R5.10.27
S36 国文	河西 栄子	
S36 国文	坂田 栄子	
S38 国文	佐々木 栄子	R6.1.17
S40 国文	伊藤 栄子	R4.11.11
S43 国文	真鍋 栄子	R4
S44 国文	金山 栄子	R5.1
S45 国文	幸山 栄子	R4.11.25
S49 国文	清神 栄子	H26.4.28
S55 国文	坂本 栄子	R4.7.1
S57 国文	東 栄子	R5.8.28
H6 食管	玉 栄子	
H25 大学院	浅田 栄子	



にげろ! いもいもだん

大田野 婦子 著 (平成 14 年環テ卒)
モモンガプレス 1,430円+税



台湾 80 歳から学んだ故郷

台湾に残した偉業 土になった偉人たち

土光 洋子 著 (昭和 32 年児卒)
New York Art 2,000円+税



【Kさんとの対話から】

「こころのゆれ」が語るもの

～どんなあなたも、輝くあなた～
赤羽 潔 著 (山口県立大学名誉教授)
22世紀アート 1,800円+税

新刊紹介



笑顔の再会

下関支部長 野田 リリ

令和五年六月十七日(土) 平家茶屋で、下関支部総会を四年ぶりに開催することができました。

今年度は、昭和五十八年卒業生が幹事です。久しぶりの総会ということとコロナ禍の影響も考え、どのくらい集まっていたか不安を抱えながら準備を進めました。幸いにも例年と変わらぬ人数が集まり、楽しい会となりました。

大学からは、副学長の岩野雅子先生、桜園会からは、副会長の乃木章子様にご出席いただき、発展する母校の近況や、これからの同窓会についてのお話を伺いました。

後半は、間近に関門橋と関門海峡の美しい景色を眺めながら、美味しい料理をいただきました。

先輩方が、学びや趣味、地域のこころ、様々なことに頑張っておられる話も聞くことができ、パワーをいただきました。

参加者から「久しぶりの同窓会で楽しかった」「このような会がまたできて、嬉しい」との声をいただきました。役員にとっても、幸せな一日となりました。

(昭和58年児童文化卒)

同窓の絆

岩国支部長 友田 芙美

令和五年十一月、三年ぶりの支部会、果たして何名集まってきたか、不安の内この日を迎えました。集まったのは全部で九名でしたが、初めての参加者数名の、明るい笑顔に接し、まずはほっとしたことです。

今回は、講師の先生をお招きせず、支部会員同志の親睦を深め、これからの桜園会の絆を太く、参加人数を増やすことを目的としたので自己紹介、近況報告に時間を充分とりました。



在学中の寮での生活、卒業後の他郷での暮らし、現在の生活、これからの抱負、はたまた趣味のこと、交友のこと、話がはずんで時間をオーバーし、二時間余りの予定が、あつという間に過ぎました。

(昭和33年食物卒)

〈令和5年度支部会開催報告〉

開催日	支部名	本部からの出席 (敬称略)
5年 6月17日	下関支部	岩野雅子/乃木章子
5年 6月18日	福岡支部	岡正朗/土田敏子
5年 6月21日	山口支部	田中マキ子/相本艶子
5年 7月 9日	小野田支部	安光裕子
5年 7月15日	柳井支部	
5年 7月23日	長門支部	国広勝代/土田敏子
5年11月 4日	岩国支部	
5年11月19日	下松支部	

桜園会役員一覧

	科・年	氏 名
会 長	被服・S41	相本 艶子
副会長	被服・S51	岡村 郁子
"	食管・S54	乃木 章子
理 事	保育・S41	国広 勝代
"	食物・S49	土田 敏子
"	保育・S49	石崎 正恵
"	保育・S51	橋本 淑子
"	国文・S54	安光 裕子
"	被服・S54	中村 奈緒
"	児文・S55	磯川 裕子
"	国文・S56	杉山 美由紀
"	児文・S56	岩野 雅子
"	国文・S58	松本 直江
"	食管・S59	水津 久美子
"	児文・S60	大前 智恵子
"	国文・S61	宮村 ヤス代
"	食栄・H3	熊野 由佳子
"	栄養・H10 院H17	山崎 あかね
"	看護・H12	田中 周平
"	社福・H14 院H24	竹永 吉伸
"	環デ・H14	小橋 圭介
"	生環・H15	中村 早苗
"	国際・H18	宗内 恵美子
"	社福・H18	清水 久恵
"	院・H23 H29	吉兼 伸子
監事	食物・S41	梅地 一枝
"	食物・S44	原 ひろ子

桜園会支部リスト (令和5年12月20日現在)

支部名	支 部 長 名	支部会員数(名)
関 東	椎 木 正子 (被服S62)	717
東 海	東 淳子 (食管H4)	135
近 畿	中 島 久実 (食物S46)	664
広 島	山 下 直子 (被服S58)	701
四 国	村 松 幸子 (食物S35)	323
北九州	山 本 アンナ (被服S59)	417
福 岡	柴 田 喜代子 (国文S55)	417
佐 賀	松 林 郁子 (児文S62)	137
大 分	栗 屋 文世 (国文S44)	293
岩 国	小 川 百合子 (保育S46)	228
柳 井	福 田 玲子 (国文S55)	197
下 松	小 田 玲子 (院H29/児文S56)	331
徳 山	藤 井 由美子 (院H28/国文S45)	402
防 府	田 村 敬子 (国文H2)	503
山 口	鮎 川 友子 (被服S55)	1,499
萩	藤 井 郁子 (院H21/国文S47)	183
長 門	中 村 典子 (保育S51)	141
宇 部	吉 田 一子 (国文S60)	777
小野田	福 田 晃子 (社福H19)	210
下 関	野 田 リリ (児文S58)	452

編集後記

皆様お変わりないでしょうか。コロナも五類となり、少しづつではありますが日常が戻ってきた今、コロナ禍の反動とばかりに日々を謳歌されていることと思います。大学も学生たちの声で賑わい、活気が戻ってきております。

現在建設中の「二号館」も間もなく完成し、ますます「地域に開かれた大学」となることでしょう。今年の五月、昨年同様「総会」を実施いたします。皆様是非ご参加いただき、大学を一緒に盛り上げていただくと幸いです。(小橋記)